

鴨沂高校同窓会 理事会 議事報告（要約）

- 開催日時： 平成 24 年 5 月 26 日（土）16 時～18 時
場 所： 京都大学楽友会館
出席理事： 26 名および岡井 満氏（8 期卒・元洛北高等学校校長・洛北建替え工事当時の校長）
議 長： 山崎理事長
資 料： ①同窓会平成 23 年度会計報告書（第 1 年度目）
②会計監査報告書（平成 24 年 3 月 31 日現在）
③鴨沂高校全面改築（建替え）計画対応の会長提案（常任理事会議事録抜粋等）
④京一中・洛北「下鴨校舎 70 年の軌跡」
⑤京一中・洛北「記念事業趣意書」
⑥京一中・洛北「記念事業 会計報告」
⑦京大合格者 高校別・学部別早見表
⑧鴨沂高校同窓会 会則及び「特別事業委員会規程（案）」
⑨改正理事名簿案(3 名追加)
⑩鴨沂高校学校要覧など

●上野民夫会長 挨拶

佐川理事から鴨沂高校建替え計画の報告を受け、急遽 4 月 16 日に常任理事会を開き、同窓会としての対応の方向性を話し合った。その結果を本日の理事会で審議してもらいたい。このあと建替え計画内容を佐川理事から説明を聞き、また洛北高校建替え工事の時の校長であった岡井氏からも当時洛北の同窓会がどのように関わったかを聞かせてもらい、いずれも参考にしたい。そして今後、岡井氏に特別顧問のような立場で同窓会に協力を願いたい。

●報告事項

- ・資料①にそって平成 23 年度（第 1 年度目）の会計報告が南会計理事より行われ、さらに、廣瀬監事より 4 月 28 日に山崎理事長・戸川監事・廣瀬監事・南会計理事・金子事務局理事の 5 名で会計監査を行い特に異常がないことの監査報告。
- ・水野武夫氏、川島泰之氏、山岡亮平氏の 3 人を新たに理事に委嘱しその了承を得た報告。
- ・上野会長が 3 月 1 日の高校の卒業式に出席したが、生徒が昨年の震災を大変真剣に受け止めていることに、大いに感心をした旨の報告。

●佐川理事からの説明（要旨）

府の予算委員会が、この 3 月に各部局の精査を行ったが、府の教育委員会の調査によると、府立高校の定員割れが目立ち私立高校に生徒を取られている現状がわかった。改築、耐震が遅れている鴨沂高校も定員割れの高校ではあるが、ようやく予算が付いて耐震工事の準備が進められている。ただし、鴨沂高校の場合は、建物全体が一体化した建築であるために、技術的に一部ずつ改築を進めていく方法が採れず、全面的に壊す建替えの方法が採られることになった。そのために仮校舎を用意する移転先を検討中である。予定では平成 25 年度に基本設計、平成 26 年度～28 年度で新校舎完成、平成 29 年度より新校舎での授業開始を目標としている。鴨沂高校には、貴重な資料、絵画、建物などがあり、京都府として残しておきたいものとして正門（九条家の門）・上村松園の絵画・茶室（耐震可能かのチェックは必要）・ウイーンの森などが挙げられているが、同窓会としても残したい物の希望を集約し府教委に提出する取り組みをする必要がある。それと新校舎に同窓会事務室設置の希望も、同窓会の順位付けをした要望書に記載しておく必要がある、そして要望のために協力を惜しまない。

●審議事項 他

*卒業生名簿をここ数年もらえていないことは痛手であるので方策を検討する。

*資料③校舎建替え対応の実行委員会設置並びに資料⑧「特別事業委員会規程（案）」の件

・以下の委員会設置の提案があった。

A. 資料調査委員会

高校にある絵画、蔵書等貴重な資料を調査・選別して、新校舎に残していくことを目的とする。平成 25 年度の基本設計が作成される前に当委員会で資料の残し方を決定する必要があるため、最も急がれる委員会である。資料②の「下鴨校舎 70 年の軌跡」を参考にする。

B. 財務委員会

上記の資料調査費、物品類の寄贈、建替え記念事業などのために、同窓会員へ寄付の依頼、その他金銭面の関係を担う委員会である。

C. 鴨沂ビジョン作成委員会

伝統があり、文化的にも恵まれた環境にありながら、高校志願者数が激減し進学率も低迷している事から脱却し、建替えを機会に新しい鴨沂ビジョンを同窓会として提案する委員会である。

- ・会則第 16 条（細則）「本会則の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める」を活用し作成。この規程第 3 条に「特別顧問（特別事業に協力する有識者など）」の項目を設けて、岡井氏並びにその他の有識者に委嘱する。また第 5 条に「特別事業推進のため、本会計から繰り出した資金により、特別会計を經理する」の項目に当てはめて 300 万円を計上する。
- ・常任理事会と特別事業委員会の関係や位置付けが分からないとの質問に対しては、協議の場として常任理事会があり、特別事業委員会では同じ人が兼務し、さらに外からも加わることになるが、あくまでも理事会が決議機関であることには変わりはない。但し組織が出来たときには、財務の遂行については改めて考える。
- ・特別会計で、300 万円と寄付金等の収入、各事業支出による収支結果、剰余金が出た場合は本会計に戻すのかとの質問に対しては、その時の理事会で検討する。
- ・予算不足の際、上限は自由ではなく、それなりのしぼりをして、限りなく本会計より繰り出すことのないように特別委員会で決定すべきであるとの発言があった。
- ・以上の検討の結果、会長提案の 3 委員会立ち上げと「特別事業委員会規程」が承認された。

●岡井氏からの当時の経験談と今後の同窓会への助言（要旨）

ポイントは、同窓会と学校それに P T A が校舎建替え案、建替え後の教育について同じ方向性を急ぎ考えることが必要。洛北の建替えについて、当初は、京都名建築 100 選に入っていることもあり建替えに強く反対する声があったが、学校・同窓会・教育委員会の三者の意見調整が図られた。O B が残して欲しい彫刻・ステンドグラス、思い出のコーナーなどを新設計の中に取り入れることを強く要望して受け入れられた。建替え工事に際して、洛北はグランドにプレハブを建築できたことはよかった。この点で鴨沂は困難を伴う故、どうするかしっかりと考えることが重要である。洛北は、校舎建替えと同時にソフト面（教育内容）の改革が必要であった。「自由」について、同窓会、教師、生徒、保護者で考え方が違ったが、乗り越えることができた。校舎建替え後数年を経て「制服」を取り入れた中高一貫教育がようやく定着し、資料⑤が参考になるが、京大合格者も増え、大学進学率も上ってきた。今の京都の高校選抜制は、進学したい学校へ進学させたいとの意向が次第に強くなっているが、それは、同時に行きたくない高校が出来ることでもある。この流れの中に、今日の鴨沂高校がある。このことを踏まえて学校と話し合い、今後の鴨沂高校の目標と同窓会の目標が同じになることが望まれる。同窓会事務局の部屋は、今から高校の校舎内に確保して、実績を作っておくことが大切で教室は余っているはずである。卒業生名簿については、親に通知簿を発送するため、生徒の名簿は事務室にある。それを同窓会にももらうと良い。

●その他

- ・募金の件で、個人の寄付行為の免税措置の有無について、具体的に調べることにした。
- ・上野会長から、7 月に鴨沂高校のオープンスクールがあるので、理事の方々に連絡するのでよろしくとの案内があった。

以上